2025年度 埼玉医科大学短期大学

看護学科 学校推薦型選抜Ⅰ期
小　論　文

問題用紙　1枚

答案用紙　1枚

無断転載・複製を禁ず

次の文章を読み、内容を150字以内に要約しなさい。また、この文章に対するあなたの意見を300字以内で述べなさい。

自愛はエゴイズムのみではない。自愛には、自らの存在を受け止め、それを認めて自己への信頼を醸成する自愛もある。この意味での自愛を育むことは決して簡単ではないし、当たり前に備わるものでもない。

自分への信頼は、人間の活動の大事な原動力である。学業の上での向上心を考えてみてほしい。自らを信頼していない子供たち、いわゆる落ちこぼれと言われる子供たちは、一所懸命勉強などしない。怠けたいからと考えがちだが、そうであれば人間皆怠けたいのだから、彼らに固有な理由ではない。勉強しても自分ができるようになると信じていないからである。できる子供たちは、今苦しくてもいつかできるようになると信頼を自らに対してもっている。そう感じているから一所懸命勉強もする。自己への信頼をもっていない子供たちは、頑張ればできるようになると信じていない。そんなことは今まで一度もなかったからだ。

そうなると、行うことはただ一つだろう。わからない苦しい時間をなんとかじっと耐えて、台風が通り過ぎるように待つことだ。向上心は、自己信頼に裏打ちされなければ生じない。落ちこぼれと言われる子供たちが乗り越えなければならないもっとも高い壁は、自己への信頼の壁なのだ。

エゴイズムとしての自愛はそれが生物種の保存から来るのか、あるいは利己的遺伝子なのか、個体のレベルのエゴイズムか、解釈はいろいろとできるだろう。いずれにせよ、エゴイズムはわかりやすいし、またたやすく、人生の様々なシーンで顔をだす。自己への信頼となるとそうはいかない。

私たち人間は、好き嫌いや感覚については滅多に譲らないし、なかなか他者の意見も聴こうとはしない。たとえ聞いても適当につまんで自らの形に、英語で言う「私の靴に合わせて」(“in my shoes”)自分なりの形に変えてしまう。ところが一方、自らを信頼することは少なく、外からの意見、世の風潮、流行に合わせていないと不安である。(中略)

自らの存在のもつ様々な足りなさを受け止め、それを認めてなお自己への信頼を醸成するのはたやすくない。まず、自分を受け止めるのが難しい。たいていの場合、他者と比べてひどく落ち込むか、あるいは優越感に浸る。どちらも正しくないだろう。おそらく真実はその中間だ。外から自分を評定し、測るのをやめるべきなのだが、なかなかできない。どこに基準を求めていいか、わからなくなるからである。自己への信頼とは、自らに与えられた体、環境をうけとめて、なお、自らのあり方の無形の可能性を信じることにある。これは容易ではない。どこにも、無形の可能性を肯定してくれる保証などないからだ。若いときは、まさに無形の可能性しかない。こうした保証のない裸の可能性を前にして、若者は不安におののく。歳をとるとずるくなって後ろを向く。人生を振り返ってその軌跡を眺め、なにやら保証を手にした気になる。

エゴイズムとしての自愛は簡単である。頑固な自分への固執を日々私たちは行っている。自分を正しく愛することは難しい。柔軟に物事に対処し、他者を受け入れ、なお自らを大切にし、失わない姿勢を保つのは至難の業である。言わば、心の正中線をしっかりと据えていることの難しさがここにある。しばしば外に気をとられて、私たちは自らのあり方を考えるのを忘れる。人に気に入られたくて、自らを供してしまう場合もある。自らを大切にするには、勇気も必要としている。

(村松 聡『つなわたりの倫理学』より。一部改変)

無断転載・複製を禁ず